

## 作業療法士の新入職員教育

### 特集にあたって

2020 年より「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」が改正されることとなり、OT の養成教育だけでなく臨床実習のあり方も大きな変革を迎える。この転換期に備え、養成教員も臨床現場の OT も共に「教育力」を高めておくことが必要であり、今後は「教育力」を高めるための、われわれの努力と成果が注目されることとなるであろう。

教育手法とその内容は、時代とともに変遷する。1965 年（昭和 40 年）に「理学療法士及び作業療法士法」が施行されて以降、OT が世に出はじめた時代には、その「技術」を追求し具現化することが急務であった。医療費削減の色が濃厚となってきた1990年代ごろからは、作業療法効果の裏づけが求められ、「研究法」が必要となった。そして OT が急増し地域からも OT が求められるようになった現在とこれからは、自己と組織のマネジメント力や発信力等、技術以外の要素も必要となる。これらすべてを含む現代の OT の生涯教育における新入職員教育は、卒前教育と卒後教育（生涯教育）をシームレスにつなぐための重要な位置にある。時代にマッチし、個人を活かすための教育の一助となるよう特集を企画した。

（片岡聡子）

#### 企画担当

片岡聡子（土佐リハビリテーションカレッジ、OT）

山本伸一（山梨リハビリテーション病院、OT）

西出康晴（倉敷中央病院、OT）